

膠原病・感染症内科

■診療科長 岡山 昭彦

■研修実施担当者 宮内 俊一



教育施設として認定を受けている学会

日本内科学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本リウマチ学会教育認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本臨床検査医学会認定研修施設

診療科の概要

全身をバランス良く診ることのできる内科医を育てることを、当科の最大の目標にしています。

取り扱う疾患群は関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなどの膠原病、一般病院では診断・加療が困難な感染症、不明熱、膠原病や感染症に関連した呼吸器疾患などがあり、多岐に渡っています。

院内の各診療科において発生した複雑な感染症

については、コンサルテーションを受けています。感染制御部としては多剤耐性菌のサーベイランスや抗菌薬適正使用の推進を行っています。

関節リウマチに対する関節エコーや呼吸器疾患に対する気管支内視鏡も研修できます。

研究では、宮崎県に多いHTLV-1感染症を含め、感染症、免疫疾患の病態解明に取り組んでいます。

研修症例の特徴

不明熱の症例を通して、感染症・自己免疫疾患・悪性腫瘍の鑑別法を習得できます。

様々な感染症（真菌、HIV、SFTS、リケッチア、輸入感染症等）を受け持ち、また敗血症等のコンサルテーション症例を通して、抗菌薬の適切な使用法が学べます。

重症肺炎や間質性肺炎（膠原病肺）の急性増悪

症例を経験することで、呼吸不全の診断・治療法が学べます。

膠原病では全身諸臓器に合併症が存在するため、内科医に必要なスキルが自然に身に付きます。

免疫アレルギー疾患や感染症症例では皮膚疾患の合併も多く見られ、その理解が深まります。

ステロイドの使用法や副作用対策も学べます。

研修目標

【一般目標 (G10)】

内科疾患で基本となる病歴聴取、理学所見の取り方は、当科では最重要事項であり、研修期間中にそのスキルを習得できます。

入院時には診断が確定していない症例も多く、主治医自らが検査計画を立て、診断・治療方針を

決定できるようになることを目標としています。

そのためには、個々の患者の問題点を抽出し、多くの文献に目を通すことによって、問題解決能力が身に付くと考えています。

【個別行動目標 (SB0s)】

- 内科で経験する症状について、「頻度の高い疾患」や「緊急性の高い疾患」を鑑別に挙げられる。
- 患者の全身状態・バイタルサインを元に、適切な初期対応ができる。さらには、急変に対処できる。
- 医師として必須の手技（静脈ルート確保、動脈穿刺、気道確保等）が実施できる。
- 入院患者に対する適正な輸液療法ができる。
- 重症患者に対するモニター管理ができる。

- 気管支鏡検査を通して、酸素療法や呼吸管理を学ぶ。
- 発熱症例を通して、感染症・非感染症の判断ができる。
- 関節痛が、内科疾患によるのか整形外科疾患によるのかの鑑別ができる。
- 診療録やコンサルテーション、サマリーの適切な記載ができる。
- 症例を通して、他科とのコミュニケーションを円滑に行なうスキルが身に付く。

研修方略

【指導医および指導体制】

当科で扱う疾患は一つの臓器に限られたものではなく、診療科横断的な病態で、かつ様々な病態を呈します。そのため広く全身を診ることが要求され、他科との連携も欠かせません。

病歴聴取や身体診察、カルテ（コンサルテーション）の記載を重視するため、指導医には卒後9年目以上の内科、感染症（ICD）、リウマチ、呼吸

器の各専門医を配置しています。指導医と一緒に回診することで診療姿勢やスキルを学び、入院患者の問題点をディスカッションすることで臨床推論の習得に励んでいます。

「不確実性をもつ疾患に対応できる専門医を作る」を目標に、研修期間が有意義に過ごせるよう目指しています。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

病棟カンファレンスでは診療科の医師全員で問題解決に当たっています。この過程で、問題点の抽出力とプレゼンテーション技術が向上していきます。持ち回りで論文抄読会を行っており、最新の医学情報を共有しています。

膠原病、感染症の研究会（県内・県外）が頻回に行なわれ、積極的に参加することで、専門領域

の理解が深まるようにしています。

各学会（内科、リウマチ、感染症、呼吸器、検査医学）に積極的に参加するとともに、研修医の先生にも興味深い症例を受け持ってもらうことで、発表の場を提供しています。

当科スタッフ・医員が分担して、実臨床に役立つランチョンレクチャーを実施しています。

【週間スケジュール】

	午前	午後
月	病棟回診	病棟診療
火	病棟診療 / 外来診療 / 関節エコー	病棟診療 / 感染制御部会議
水	病棟回診	病棟診療
木	病棟診療 / 外来診療 / 関節エコー	教授回診 病棟カンファレンス
金	気管支鏡検査	病棟診療

研修評価

○オンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）

指導医・先輩医師からのメッセージ

当科の大きな特徴の一つは、全身性の自己免疫疾患を診ることから多臓器に対するアプローチを行っていく点です。このため、全身の診察や各臓器に対する検査・治療方針の計画が必要となり、内科医としての力を養うことができます。また、目に見えない病態に対して、身体所見や検査結果を元に疾患の診断へと至る過程は内科の醍醐味だと思います。膠原病という専門性の高い領域が

ら、感染症というコモンな疾患まで幅広く勉強することができる科なので、内科医を目指している方はもちろんの事、他の科を目指している方も是非研修をまわってみて下さい。

